R Alumni

りつめい No.267／2017年1月号
発行所／立命館大学校友会／年4回発行
発行人／村上健治
編集人／加藤美佐子
〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1
Tel.075（813）8216 Fax.075（813）8217
URL：http://alumni.ritsumei.jp
E-mail ： alumni@st.ritsumei.ac.jp

りつめい
題字・末川 博名誉総長
立命館大学校友会報

R Alumni
立命館大学校友会
No.267
2017 JANUARY
100th
2019,つながる校友会、ひろがる立命館

［巻頭特集］

リツジョの挑戦
― 輝く女性たち ―

輝くひと
株式会社VASILY 代表取締役CEO
金山裕樹さん（'01政策）

自ら困難な道へ進む

IT業界の風雲児、金山裕樹さんに先見性の養い方を教えてほしいとお願いすると、意外な言葉が返ってきた。

「自分に先見性があるとは思えないので、わかりません（笑）」

金山さんが代表を務める「VASILY」は2008年に設立されたITベンチャー企業だ。2010年から運営する「iQON」は、ファッションSNSアプリで、自分の好きな服や小物のコーディネートを発信したり、他のユーザーが投稿したコーディネートの商品を購入したりすることができる。現在、200万人がユーザー登録しており、ファッションアプリとして世界唯一、Apple社とGoogle社が選ぶベストアプリに選出されるなど、国内外で高く評価されている。

金山さんは立命館大学在学中、海外の有名ミュージシャンも多数出演する音楽イベント「フジロックフェスティバル」に出演した経歴がある。当時は、そのままミュージシャンとしてバラ色の人生を歩んでいくものだと思っていた。だが、金山さんの話によると天狗な態度が災いしたのか、所属していたバンドの人気は下がり、解散に追い込まれた。失意のどん底にいた金山さんだったが、音楽活動時代にお世話になった会社の人の誘いでWEBの仕事に就き、第二の人生が始まった。

金山さんの最大の転機は、VASILYへの初出勤日のこと。奥さんが突然病気で倒れ、生死をさまよった。看病も、自身の会社も、奥さんが経営していた会社もすべてが一気に金山さんの肩にのしかかったのだ。希望と絶望と重圧が入り混じる切迫した状況だったが、金山さんはどれもあきらめなかった。「なぜ、こんなに問題が降りかかるのかと悩みました。でも、起こったことは仕方がない。それをどう解釈し、どう行動するかは自分の心に委ねられていることに気が付いたんです。だから、すべてを受け入れる覚悟をしました」

大きな試練を乗り切った今では、自ら困難な道を選ぶようになったという。なぜなら、そこから学べることが計り知れないからだ。

「100のことを仕掛けても、うまくいくのは1つくらい。大切なのは、どんなに苦しくても決して逃げないこと。先見の明はないけれど、打たれ強さは誰よりもあると思います」

どんなことにも果敢に立ち向かう、新進気鋭のイノベーターが打つ次の一手に期待が高まる。

（文：高原珠美　写真撮影：宅間國博）

株式会社VASILY　代表取締役CEO
金山裕樹（かなやまゆうき）さん（'01政策）

輝くひと
99

立命館大学校友会報
りつめい
JANUARY 2017
No.267

03 巻頭特集
リツジョの挑戦 ―輝く女性たち―
01 輝くひと
株式会社VASILY　代表取締役CEO
金山裕樹さん
08 RITSUMEI INTERVIEW
バイオマスリサーチ株式会社　代表取締役
菊池貞雄さん
12 オール立命館校友大会2016 in 金沢
開催報告
14 3.11 復興への願い
東北応援ツアー参加者レポート
16 東日本大震災復興支援金芳名録
TOPICS
18 校友会設立100周年 Road to 2019 vol.03
19 校友会ネットワーク
校友会行事報告
今後の行事予定
22 校友会未来人財育成基金
24 キャンパストピックス
26 学生の活躍
29 ＋Rな人
森雄一朗さん（法3）
30 INFORMATION
編集室から

Present
アンケートにご協力いただいた方にオリジナルグッズをプレゼント中!

デザイン・ディライツ広告事務所

| 巻頭特集 |

リツジョの挑戦

―輝く女性たち―

立命館大学を卒業後、専門のスキルを学び、活躍する校友たちがいる。
そのなかで、白衣をまとい、わが道を邁進する女性２人の姿を追った。

「自分らしく生きる」を支える

2016年5月、【第6回「忘れられない看護エピソード」】で最優秀賞に次ぐ内館牧子賞を受賞したのは、富山赤十字病院の助産師 中村凡子さん（'94文）だ。これは公益社団法人日本看護協会が看護の現場で体験した心温まるエピソードを募集したもので、応募総数3,305作品の中から選ばれた。

「文学部出身ということで、病棟のスタッフから背中を押されて応募したんです。まさか、入賞するなんて夢にも思っていなかったので、本当にびっくりしました」と中村さんは照れくさそうに笑う。

中村さんは現在、故郷の富山市で助産師として働いている。

大学卒業後すぐに結婚し、妊娠・出産・育児を経験した中村さんは、子どもを産み育てることは、女性にとって価値観が変わるほどの大きな出来事であることを実感。その経験をもとに、病院や他人に任せっきりにするのではなく、主体性を持って健康管理をするなど、妊産婦自身が頑張ったと思える出産をサポートしたいと一念発起。助産師になるため27歳で看護学校に入学し、4年後、夢をかなえた。

賞状

看護職部門 内館牧子賞

中村凡子 殿

富山赤十字病院 7階 西病棟助産師
中村凡子さん（'94文）

〔撮影：津久井珠美　撮影協力：富山赤十字病院〕

助産師の仕事は、分娩時の立ち合いだけにとどまらない。

妊婦やじょく婦（出産を終えたばかりの女性）の健康管理や食事・運動の生活指導、出産後の体調管理、母乳指導、乳児指導など、妊娠から出産、育児など、人が誕生する全般について関わる。

中村さんの「忘れられない看護エピソード」は、あるお母さんに母乳指導をしていたときの話だ。

出産後、母乳でわが子を育てたいと人一倍努力してきたお母さんが、「もうおっぱいをやめたい」と訴えた。母乳で育てることを支援している中村さんには、言いたいことがたくさんあったが、お母さんの「育児を楽しいと思えなくて」との言葉にすべてをのみ込んだ。独りで悩み苦しんできたお母さんの想いに耳を傾け、そして、声を掛けた。「今まで精一杯がんばりましたね」。

それを聞いたお母さんの目から涙があふれた―

自分らしい育児を支援

「知識や支援を得る機会がないために、母乳育児を途中で諦めてしまうお母さんがたくさんいるのです。かつては、私もその一人。だからこそ、そんな人が一人でも少なくなるようにとやってきました。でも、一方で『母乳で育てることが、いいお母さんの条件』という偏った考えがあるのも事実。理想通りに母乳が出せない自分を責め、苦しむお母さんは多いのです」と中村さんは言う。

母乳で赤ちゃんを育てるのは、人間として自然なことだ。しかし、母乳が出にくかったり、服薬などで母乳を続けられなかったりするのであれば、ミルクで育てることも選択肢の一つ。「母乳で育てられないからといって引け目を感じる必要はありません。周りの声に惑わされず、自分らしく堂々と育児を楽しんでほしい」と熱をこめる。

言葉にならない想いに寄り添う

中村さんは看護学生のとき、持病の悪化で人工透析が必要になった40代の男性患者を受け持った。治療に前向きではなかったため、頑張って治療を受けてほしいと励ましたが、男性は「病気になってしまって、さみしいんだ」とつぶやいた。

それは、初めてその男性から出た本音だった。働き盛りといわれる年齢で働けなくなるつらさ、身体が弱っていく恐ろしさ、できていたことができなくなる悲しさ…。この言葉の奥底にある想いを理解した中村さんは、励ましが表面的で、自己満足だったことに気付かされた。

私がすべきことは、自分の理想を押し付けることではなく、その人にとってのベストな生き方をサポートすること―。この学びが助産師になった今でも生きている。

母乳中断のアドバイスをしたお母さんが後日、中村さんに駆け寄ってきてこう言った。「あの日、話を聴いてもらって、気持ちがすごく軽くなって、おっぱいの痛みが楽になったんです。母乳をやめる理由がなくなりました。ありがとうございました」。

人生には、力を尽くしてもうまくいかないこともある。

「そんなときこそ、“なるようになる”。力を抜いて、信じて進み続けることが大切だと思っています」と中村さんは微笑んだ。

看護エピソードの最後はこう締めくくられている。

「母は強し」とよく言うけれど、ちょっとした支えがあれば、もっと強く、優しくなれるのだ。そんな手助けができるこの仕事、当分辞められそうもない。

負けず嫌いが切り拓いた未来

「いつも仕事中は、ほとんど化粧をしていません。
溶かしたチョコレートの温度を下唇と顎の間の部分で確かめるので、
化粧をしてしまうとチョコレートに化粧が入ってしまう気がするので。
だから、今日は特別ですよ」と薄化粧をした藤 由加里さん（'11 文）は笑顔を見せた。

藤さんは現在、奈良県桜井市にある「オーベルジュ・ド・ぷれざんす 桜井」でパティシエとして働いている。平均年齢30歳未満と若手スタッフが多い厨房で、洋菓子を一人で担当する。

「通常営業のランチ、ディナーに加えて週末のパーティーなど、約50人前のデザートを作ります。その合間にシェフのアドバイスをもらいながら試作品も作るので、結構な量を作っていますね（笑）」

お菓子作りとの出合いは小学生のころ。図書館で借りてきた児童書を読んで、アップルパイを作ったのがきっかけだ。

「初めてでひどい出来だったと思うのですが、母は『おいしい！』と褒めてくれました。もっと喜んでほしくて何度も作るうちに、レシピ通りでは物足りなくなって…。調理前にりんごの甘さを確認してから、加える砂糖やシナモンの量を調整するなど、自分でアレンジを加えていきました」

お菓子作りの面白さに魅了された藤さんは、幼くしてパティシエになる夢を持った。次第に海外でも修業をしたいと考えるようになり、交換留学制度で英語力を磨ける高校へ進学。卒業後は、製菓専門学校に進もうと考えていた。

しかし、進路を決める時期になって、母親からある想いを打ち明けられた。

大学に進んでほしい―。

望んでも大学に行けなかった母親の言葉からは一人娘に対する愛情が感じられ、藤さんに重く響いた。その想いに応えるべく進路を変更し、猛勉強の末、立命館大学に入学。卒業後は、大手証券会社に営業職で入社した。

「毎日100本の電話、100件の訪問という昔ながらの営業スタイルでした。本当に大変でしたけど、負けず嫌いの私にはぴったりで、お客様が増えるたびに楽しみも増えていきました」

〔撮影：津久井珠美　撮影協力：オーベルジュ・ド・ぷれざんす 桜井〕

私には、諦められない夢がある

その当時の訪問先は企業の社長、公認会計士、税理士など自分で事業を立ち上げた人がほとんど。志を胸に道を切り拓いてきた先輩から「人生は一度きり。自分が本当にやりたいことをしなさい」と言われ、藤さんはわが身を省みた。

大学に進み、厳しい就職活動を経て、ようやく今の仕事に就けた。どんな場面でも決して諦めず、全力を尽くし、道を切り拓いてきた。

でも、この道は本当に自分が望んだものなのか。

私は、この人生に満足しているのか―。

悩んだ挙句、入社1年後に証券会社を退職し、パティシエになるため製菓専門学校に入学。日本とフランスで技術を習得し、フランスの三つ星レストランで実地研修を経て、日本に戻った。その後、京都の有名ホテルでパティシエとして腕を磨き、2016年2月、生まれ故郷に近い今のレストランに移った。

職人としてのプライドを持ちたい

「このお店には、デザートを作る際の配合表（材料の分量表）がない場合があります。シェフから、使う食材・素材やその日の温度・湿度などを考慮して作るように言われるのです。理想とする形を逆算して、自分で微調整をしながら作りあげていく。当初は正解がないことに戸惑いましたが、これまでの経験と知識をフルに活用しながら、どうにかやっていけるようになりました」

しかし、一人だけでの作業では不安が生じてくる。自分が作ったデザートは、コースを締めくくるクオリティーに達しているのか、お客様のご希望に沿うものを提供できているのか。

「私は、負けん気が強い半面、自分に自信がありません。自信がないから負けん気が強いというのか…。『信頼して任せているんだから、自信を持て！』と言われますが、シェフに都度『これで大丈夫ですか?』と確認をしてしまいます」

目下の課題は、自分を信じることができる技術とメンタルを持つこと、と藤さんは意気込む。

休日は、近くの農協に行き、販売所に陳列されている野菜や果物を見る。自分で旬を体感し、お皿の上で季節を表現するためだ。

「どのように手を加えたら、素材のよさを引き出せるかなと、想像しながら物色しています。でも、いつの間にか家で食べたい食材も選んでいて…（笑）。私は、作ることも好きですが、食べているときが一番幸せなんです。だから、私が作ったもので、同じようにお客様も幸せな気持ちになってもらえれば、本望です」

母を喜ばせたいとアップルパイを作っていた小さな手は、人を幸せにする洋菓子を作る職人の手へと変貌を遂げた。

（株）ひらまつ
オーベルジュ・ド・ぷれざんす 桜井
パティシエ
藤 由加里さん（'11 文）

［撮影：竹下さより　撮影協力：丹波乳業株式会社］

バイオマスリサーチ株式会社 代表取締役

菊池貞雄さん

1981年 産業社会学部 卒業

バイオマスとソーシャルビジネスで地域雇用の活性化を

菊池貞雄さんは、1991年から地域振興に関わり、現在、バイオマスリサーチ株式会社の代表取締役として、家畜ふん尿や生ごみなどバイオマスから発生したバイオガスで地域創生に取り組む。活動範囲は日本だけにとどまらず、JICAと連携したキルギス共和国における有機農業普及プロジェクトや、ベトナムやバングラデシュでのバイオマスの研究開発など、海外にも及ぶ。

バイオマスとの出合い

バイオマスとは、化石資源を除く木質資源、家畜ふん尿、食物残渣など動植物から生まれる再生可能な有機性資源のことをいいます。私は、酪農・畜産の排せつ物をバイオマスとし、これらを発酵させて発生したバイオガスを活用して地域づくりを行っています。バイオマスを知ったのは、1997年のこと。世界各国の政府代表者が京都に集まり、3回目となる国連気候変動枠組条約の締約国会議が開催され、京都議定書が採択されたときです。会議出席のために来日していたデンマークのバイオマス技術者を招き、北海道でシンポジウムを行いました。これがきっかけでバイオマスが北海道で本格的に導入されたのです。当時、私は建設コンサルタント会社で地域づくり計画や農村観光計画、農村ブランド計画に携わっていました。北海道は、酪農・畜産が基幹産業である地域が多いにもかかわらず、臭気対策や労働軽減の視点では不十分でした。ふん尿の処理は、重労働の割にコストもかかるし、臭いもきつい。堆肥をつくる過程では、重機を使って堆肥をかき混ぜる作業（切り返し）が必要になります。このようにふん尿処理は負担が大きく、高齢になると続けることが難しくなるのです。しかし、バイオガス施設を取り入れることで、これらの問題が軽減され、しかも、クリーンなエネルギーと利潤を生みだすことができる。バイオマスを北海道に流通させることが、基幹産業と地域を守ることにつながると確信し、取り組みを始めました。

「ソーシャルファームジャパンサミット in びわこ」にて
左から：菊池氏、カトリーヌ氏、宮嶋氏、ヘンケル氏、クリスチャン・ソテール氏（元フランス経済・財政・産業大臣）

同年に自治体、公的機関、民間会社で「十勝型バイオガスプラント開発研究会」を立ち上げ、翌年、地域事業者の民間5社でバイオマスプラントを開発するチームを作りました。公共事業ばかりではなく、民間で産業づくりをしないと定着しないだろうと考えたためです。北海道を皮切りに、現在では産学官民と連携しながら日本各地や海外でも活動をしています。

社会的弱者の自立を支援 ― ソーシャルファーム

ソーシャルファームとは、障がいのある人や労働市場で不利な立場にある人々の就労問題に取り組むビジネスモデルです。例えば、みなさんは名刺入れを購入する際、百貨店などに行きますよね。実は、障がい者施設でも名刺入れを製作・販売しているところがあります。けれど、そのことが知られていないから、施設には行かない。それは、一般的な販売ルートと区別されているということなのです。私は、そのような区別をなくすことや、社会的弱者を社会の中に取り入れていこうとする取り組み（ソーシャルインクルージョン）も行っています。

私がソーシャルファームを知ったのは、2006年、当時の環

境事務次官をしていた炭谷茂さんと出会ったことがきっかけでした。社会的課題をビジネス的視点で解決する「ソーシャルビジネス」で社会的弱者の自立を支援したいというお話を伺い、私も賛同。北海道・新得町にある「共働学舎 新得農場」の代表、宮嶋望氏とともに、帯広で「ソーシャルファーム研究会」を立ち上げました。2カ年にわたり勉強会を開催したところ、十勝の首長をはじめ多くの人にご参加いただき、手応えを感じました。この活動を北海道だけではなく日本全国に広げようと、2008年「ソーシャルファームジャパン」の立ち上げの中核を担いました。2014年からは年に一度、「ソーシャルファームジャパンサミット」を開催しています。これまでに北海道、滋賀県、茨城県で開催しましたが、年々参加者が増え続け、近年では全国から500人ほどの参加があります。

ソーシャルファームとバイオマスをつなぐもの

2014年に北海道で開催した「ソーシャルファームジャパンサミット」では、フランスの非営利活動法人「ジャルダン・ド・コカーニュ」の創始者、ジャン・ギィ・ヘンケル氏を招き、講演をしてもらいました。「ジャルダン・ド・コカーニュ」は、フランス全土に130カ所、約380ヘクタールの農場で有機農業を展開し、約4,300人の社会的弱者が働いています。そして彼らが育てた有機野菜を約25,000世帯の提携家庭が購入し、社会的弱者の社会復帰を支援しています。消費者と生産者がつながって、雇用に恵まれない人たちが雇用されるように教育、訓練、リクルートまでする。これを「社会連帯経済」といいますが、このシステムを日本でも展開できるように活動しています。そして、この有機野菜の肥料としてバイオガスが発生した後の副産物である消化液を使い、有機農業をベースにバイオマスとソーシャルファームがつながる仕組みづくりに取り組んでいます。

大学で学んだことが生かされている

立命館大学に進んだのは、「京都」だったからです。京都以外でも社会学が学べ、学費が安い大学を複数受けました。すべての大学に合格し、どこに入学しようか考えたとき、原文で読めるほど日本の古文が好きだった私は、古文のふるさとである京都の情緒のなかで暮らしたいと立命館大学を選びました。また、出身地の帯広は東京の文化の影響が強いため、関西の文化に身を置きたいと思ったことも理由のひとつです。

今取り組んでいる活動は、産業社会学部で学んだこと、そのものです。当時はマスコミ論に興味があったので、社会問題論、福祉論、統計学などにはそれほど興味が持てず、邪魔くさいなと思っていました（笑）。しかし、それらを学んだことで、社会問題に対するハードルを下げることができた。そして、さまざまなことに対応できる「目次」を知ることができた。地域創生を考えるための下地づくりができていたんですね。これがかなり大きかった。また、「バイオマス」「有機農業」などひとつを深掘りするだけでなく、それらを結びつけて横断的に考える力を身につけられたと思っています。

興部町バイオガスプラント竣工式で 硲町長と

大学卒業後は北海道に戻り、建築機械メーカーに営業職で入社しました。当時は、立命館大学を卒業したというだけで「優秀な大学を卒業した人」というイメージを持たれ、仕事に支障が出たこともありました。そのハンディをなくしたくて、校友会とも長らく関わりを持たずにいました。しかし、苦労しながらも物を売っていくなかで、人との信頼関係やご縁の大切さを実感し、私が持っている過去の資産、つまり校友や関わってくれた人の大きさに気が付きました。そう思い始めたころ、校友の先輩に誘われ、北海道の校友会に顔を出しました。そこで、後に地方創生に取り組むチャンスを与えてくれた方と知り合ったのです。その方も立命館大学の校友でした。ささいなきっかけでしたが、何物にも代えがたい大きなご縁をもらったと感謝しています。

理想とする形を地方から発信する

学生のころから持ち続けている社会に対する興味や関心は、自分の軸となりました。当初、仕事とは別のフィールドで地域づくりに関われたらと思っていましたが、ライフワークとなった現在では、ほとんど休みなく活動しています。しかし、マルクスの疎外論ではありませんが、仕事や活動と自己実現が一致しているので、ほとんどストレスを感じていません。

私は、バイオガスを売ってビジネスをすることが目的ではなく、農村を守るための新しい手法としてバイオガスを取り入れることが目的です。人間は、食料とエネルギーがあれば生きていける。その2つで農村を活性化するためのコンサルティング事業をしているのです。今、バイオマスはクリーンエネルギーとして注目され、売電ビジネスを目的として大企業が参画しています。それ自体に反対ではありませんが、都会のやり方を地方に押し付けて行うことは懸念される点です。それぞれの自治体の状況や、そこに住む人たちの立場がある。理想とする形は都会で考えられるものではなく、地方から発信していく必要があるのです。その点をコンサルティングできる日本最大のバイオマスシンクタンクでありたいと思っています。

日本の未来は明るい

地方の酪農業にとって畜産の排せつ物処理は、コストも労力もかかる非常に頭の痛い問題です。しかも、製品である牛乳は1リットル200円以下で、500ミリリットル100円台のペットボトルの水より安いのが現状なのです。しかし、ふん尿からバイオガスを取り出して電力や熱エネルギーとして販売することで、一般の購入者が間接的に酪農家を支援することになります。また、バイオマスの有機肥料である消化液から生産された有機農産物を購入することで、小規模で有機農業を始めた畑作農家や高齢化した酪農家を支援することになります。このような活動が地域の付加価値を高めて、全国に仲間を作り出すことになるのです。私はこれが「地方創生」だと思っています。

社会連帯経済は、フランスをはじめとして世界で取り組まれています。フェアトレードやNPO、有機農業、貧困対策などがキーワードとしてあげられます。

ソーシャルファームジャパンサミットには、そのような問題に取り組む仲間がたくさん参加してくれました。しかも、みんな若い。日本の将来は明るいぞ！ と、私は希望を感じています。

PROFILE

バイオマスリサーチ株式会社
代表取締役

菊池貞雄（きくちさだお）さん（'81産社）

「バイオマス事業は、農業者の主体性を拡大することが重要です。少人数であっても人が集まるところに出向いてわかりやすい説明会を開催しています」

1957年北海道帯広市生まれ。
1981年立命館大学産業社会学部を卒業後、建築機械メーカー、建設コンサルタント会社を経て、2007年に北海道バイオマスリサーチ株式会社（現：バイオマスリサーチ株式会社）を設立。2012年バイオガス研究で帯広畜産大学大学院畜産衛生学の博士号を取得。武蔵野美術大学特別講師やNPO法人日本ロングトレイル協会理事、ソーシャルファームジャパン常任理事、NPO法人あうるず理事などを兼任。

単行本
『ソーシャルファーム～ちょっと変わった福祉の現場から～』
創森社

オール立命館校友大会 2016 in 金沢

10月29日（土）、石川県金沢市で「オール立命館校友大会2016 in金沢」が開催された。立命館大学校友会のもとに北陸3県（石川・富山・福井）校友会を中心とした実行委員会が組織され、全国各地から延べ約4,300名が参加。大盛況となった。

オープニング・もてなしドーム（地下イベント広場）

金沢駅に巨大な懸垂幕をかかげ、全国からの来訪者を迎えた「オール立命館校友大会2016 in 金沢」。オープニングは、もてなしドーム地下イベント広場特設ステージでの村上健治会長、山野之義・金沢市長の挨拶でスタートした。ステージ前の広場では、将棋・元女流アマ名人（7冠）の校友、石内奈々絵氏による「きょうりゅうしょうぎ体験」、競技かるた第62期名人で校友の川崎文義氏による「かるた体験」、立命館大学白川静記念 東洋文字文化研究所主催の「白川文字学企画」、学生の日頃の課外活動の成果を生かした体験企画など、学生父母や市民の方が親子で参加できる企画を開催、約2,000名が来場した。子どもたちの真剣なまなざしや体験を楽しむ声が会場に響いていた。

もてなしドーム（地上・鼓門周辺）

金沢駅の鼓門近くでは「音によるおもてなし」の体験型社会実験が行われた。これは、立命館大学情報理工学部・西浦敬信教授の「音情報処理研究室」が研究する「超音波スピーカー」を活用したもので、音がピンポイントで聞こえる空間を創出し、一つの空間で複数の人が聞きたい音を聞き分けることができる「空間シェアリング」を実現したもの。日本語だけでなく英語、中国語、韓国語で金沢駅の象徴である「鼓門」や「もてなしドーム」を紹介、約400名の来場者に驚きを与えていた。

総会・懇親会

総会・懇親会には、北陸3県の校友会から約500名、トータルで約900名の参加があった。懇親会では、北陸3県を代表するテレビ局の現役・元アナウンサーの校友が司会を務め、富山県民謡の「越中八尾おわら節」や石川県の「ひがし茶屋街の芸妓のおどり」と、北陸の魅力を前面に打ち出したイベントを展開。北陸3県の日本酒を用いた鏡割りを皮切りに、現役学生による出前ちんどんのパフォーマンス、立命館大学応援団によるファイトオンステージや校歌・応援歌も行われ、これまでに類を見ないアンコールの声が巻き起こるなど会場を大いに盛り上げた。

立命館アカデミック企画 in ホテル日航金沢

アカデミック企画の第1部では、講師に立命館大学客員教授の宮家邦彦氏を招き、「地政学と日本の大戦略」の講演会を開催。第2部では、宮家邦彦氏、吉田美喜夫・立命館総長、校友の北國新聞社論説委員の小倉正人氏（'70文）が「世界が求める人材像と大学の役割」と題したシンポジウムを行い、立命館大学が担う役割についてディスカッションを実施、約600名の参加があった。シンポジウムでは、吉田総長が「政治・経済・安全保障をはじめ、アジアでは共通の課題が山積しているが、人と人とのつながりを強め、異なる文化や価値観を理解し、尊重する姿勢を育てていくことで解決への糸口が見つかり、そこに大学が社会において果たすべき役割があるのではないか」と指摘。「時代の要請に的確に対応する改革を、自主的・主体的に断行し、絶え間なく自己変革を行っていくことが立命館のアイデンティティーで、学部やキャンパスの垣根やさまざまな制約を越えて横断的に教育研究者が集い、高い挑戦意識を持って展開をはかろうとする姿勢が、大学の発展や社会貢献につながるのではないか」と締めくくられた。

FIT Cafe in 金沢

ホテル日航金沢で開催された「FIT（Fukui・Ishikawa・Toyama）Cafe in 金沢」は、グループごとにテーマを設定して交流する、ワールドカフェスタイルで実施。女性ならではのテーマに加えて、金箔貼りや越前和紙アクセサリー作成、薬膳のレクチャーなど北陸3県の魅力を生かした企画を行い、参加した約80名は体験を通してさらに交流を深めた。

立★コン

20～30代の若手校友の交流会「立★コン2016」には、約120名が参加。趣味、人生、出会いなど各テーブルでテーマを設定。個人の新しいつながりに加え、地域ごとの校友活動について意見交換も行われた。また、北陸3県の若手校友が11月に再び金沢に集う企画が発表され、会場は大いに盛り上がった。

衣笠・広小路の集い

シニア層の校友を中心とした懇談会「衣笠・広小路の集い」には、約160名が参加。旧友との再会を喜ぶ姿も見られた。立命館名誉顧問の川本八郎氏と立命館大学名誉教授の坂本和一氏によるトークショーが立命館常務理事・志磨慶子氏の司会で行われ、当時を振り返る映像の上映や学生時代の話、その後の学園の発展に関する内容が語られると、会場からは昔を懐かしむ声が上がった。

2016年度立命館大学校友会東日本大震災復興支援事業

東北応援ツアー参加者レポート

東日本大震災で被災した地域の活性、校友による震災学習を目的とした立命館大学校友会の復興支援事業でもある「東北応援ツアー」。本年度も岩手県、福島県、宮城県の3県で実施され、一般校友53人、現地校友28人、総計81人が参加しました。
今号では、ツアーに参加した現地校友によるレポートをお伝えします。

2016年度 東北応援ツアー 実施内容	●岩手県コース	●福島県コース	●宮城県コース
	11月5日（土）–6日（日） 遠野 ➡ 三陸海岸 ➡ 陸前高田 ➡ 平泉 などをめぐるコース	11月12日（土）– 13日（日） 浪江地区 ➡ Jヴィレッジ ➡ いわき などをめぐるコース	11月19日（土）– 20日（日） 南三陸 ➡ 女川 ➡ 松島 ➡ 塩竈 ➡ 閖上（ゆりあげ）地区 などをめぐるコース

岩手県コース

あの日を忘れない

岩手県校友会
事務局長補佐
酒井邦子さん
（1975年 文学部卒業）

11月5日、出発した盛岡市は雨模様でしたが遠野市は青空。「民話の里」は散策日和です。

あの時、遠野市には全国から集まったボランティアを迎える支援センター、救援物資の拠点があり、小学校の校庭には災害派遣の自衛隊車両が何十台も待機していました。あの日から5年8カ月、今ではそんなこともすっかり忘れてしまったかのように、晩秋の柔らかな日差しがのどかな田園風景を包んでいます。

さらに1時間ほどバスで走り、沿岸の釜石市に到着しました。「震災学習列車」に乗るため駅前に集まっていると、突然大きなサイレンが鳴り始めました。とても大きな、緊急事態を知らせるサイレンです。なにごとか、とツアー参加者も不安顔です。「あっそうだ、今日は津波防災の日。避難訓練のサイレンだ」と分かってホッとしました。あの日、避難警報のサイレンは、ずっと鳴り続けていたと思います。津波が釜石の町をのみ込むまで鳴り続けていたのでしょう。

列車に乗って車窓から海を見ると、あの日の海と、今こうして見ている海とが同じ海だとはどうしても思えません。この落差こそ、私たちが決して忘れてはいけないことだと思いました。暗いトンネルと明るい景色がかわるがわる現れます。美しく穏やかな海と、紅葉に染まる山、そしてリアス海岸に点在する集落が車窓から見えます。そこには流された家の基礎、修復途中の道路、真新しい防波堤…。ここに住んでいた人たちはどこに行ったのだろう、これからこの漁村はどうなるのだろう、複雑な思いが交錯します。

震災当時の様子を語る鈴木正彦氏（陸前高田市）

大船渡市の盛（さかり）駅で列車から降り、バスで被災した大船渡市や津波ですっかり町の様子が変わった陸前高田市を走りホテルに向かいました。ホテルで行われた勉強会では、岩手の沿岸に住む4人の校友の話を聞きました。ツアー参加者の真剣な眼差しが印象的でした。

翌朝、有線放送から流れる大音量の時報で目が覚めました。スピーカーが近くにあるのでしょうか、学生時代によく聴いたポール・モーリアの「恋はみずいろ」のメロディーです。おなじ大音量でもサイレンよりは「いいな」と思いながら6日の朝が始まりました。

ホテルを出て、バスで陸前高田復興まちづくり情報館、旧道の駅震災遺構、震災追悼施設を訪れました。そこで、みなさんに見せたいとホテルから一足早く陸前高田市の自宅に戻った校友の鈴木正彦さんが、写真額を持って駆け付けてくれました。昔、私が娘たちと海水浴を楽しんだ高田松原の7万本の松林と満開の桜並木の写真でした。私はその写真を目に焼き付け沿岸を後にしました。

復興と一口に言いますが、そこには取り戻せないものもたくさんあります。あの日を忘れずに、一日、一日を大切に積み重ねていかなければと改めて思いました。

ツアーから3日、まだ私の頭の中には「恋はみずいろ～空と海の色♪」のメロディーが流れています。

震災学習列車

釜石駅～盛駅間の車窓から

福島県コース

地震、津波、原発事故、風評被害、そして無関心。現在進行形の被災地より

福島県校友会
幹事長
馬場幸蔵さん
（1976年 産業社会学部卒業）

東北応援ツアーレポートを書いている最中の11月22日早朝、福島県沖で発生した震度5弱の地震、続いて出された津波警報、さらには原発の使用済み燃料プールでの冷却停止のニュースは、あの大震災から5年8カ月を過ぎた今でも、瞬時にあの時を思い出させてくれました。

今回の東北応援ツアーは、被災地福島県の中でもその最深部というべき双葉郡、いわき市を、昨年に引き続きご案内させていただきました。今回のツアーにご参加いただいたみなさまは、きっと11月22日の福島県沖地震のニュースの映像を、ご自分がその目で見てきた被災地の風景と重ねて、実体験のように感じていただけたのではないでしょうか。

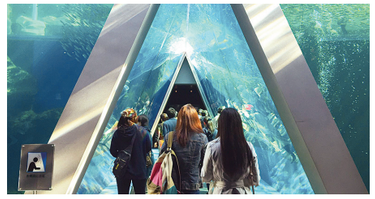
参加者のみなさまが実際歩いて見た通り、福島県での被災はまだ続いています。震災前2万人の住民が生活を営んでいた浪江町は、今でも全ての住民が、原発事故が原因で避難を余儀なくされており、全ての家が未だに空き家のままです。しかし、そこから250キロしか離れていない東京では、地震も原発事故も過去の話だと、2020年のオリンピックに沸き、原発の再稼働が議論され、総理大臣が原発輸出の先頭に立って世界に原発を売り込んでいます。関西においては、メディアで報道されることもなくなっているようです。

昨年の応援ツアーへの反響が大きく、今年も同じコースとさせていただきましたが、昨年の至らなかった部分を反省しながら、参加者のみなさまにはありのままの被災地をご覧いただき、感じていただくことを主眼として福島県校友会会員のネットワークを駆使して準備を進めてまいりました。

また、日中の重たい視察の後には、復興へ向けて力強く歩む福島県も感じていただけるよう、さらには参加者と福島県校友会の親睦交流を図る場も設けさせていただきました。

全国各地より、遠路お越しいただきました参加者のみなさまに、福島県校友会を代表して心から御礼申し上げます。また、それぞれの持ち味を十分に発揮して設営や運営にご協力いただいた福島県校友会若手メンバーの行動力に、福島県校友会の未来を感じることができた2日間でした。

浪江町 本間茂行副町長の話を熱心に聞く参加者たち



環境水族館アクアマリンふくしま

コンピューター管理されたトマトの栽培について話をするあかい菜園（株）船生典文社長

宮城県コース

東北応援ツアーに参加して

宮城県校友会
事務局長
柏原　晋さん
（1970年 経営学部卒業）

震災の風化が叫ばれている昨今、宮城県校友会では校友会事務局の方々と何回か事前打合せを行い、各勉強会の講師の充実を検討し、ツアー開催に備えました。

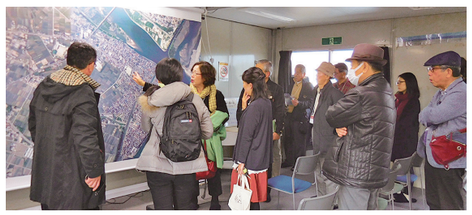
最初の訪問地、南三陸では気仙沼向洋高校の岸貴司先生より防災の大切さを講演していただきました。防災意識を常に持ち、具体的に震災に備え、地域防災はみなの力で実行することを学びました。震災情報を収集し、ファーストペンギンとなって最初に逃げて警戒し、震災の話を繋げて風化させてはいけないと強調されました。

女川町への移動中、校友で地元の（株）河北新報社 大泉大介さんに記者の目から見た震災について話してもらいました。日頃から自分で備え、自助・共助・公助の大切さを話されていました。震災後の反省として、河北新報では狭く深く掘り下げて情報発信しているとのことで、少人数の防災出前勉強会「むすび塾」を随時開催されています。

女川では新設された駅舎と商店街シーパルピア女川を見学しました。土曜にもかかわらず雨のせいか客はとても少なく、震災の風化が進んでいるようでとても残念でした。

ホテルでの勉強会は、名取市閖上で笹かまぼこ工場を再建された校友で（株）ささ圭の佐々木圭亮社長・靖子専務ご夫妻より工場再建談と厳しい現状を、そして石巻市で缶詰工場を再建された同じく校友の（株）木の屋石巻水産の木村長努社長より、その再建談を話していただきました。

2日目は松島を船で遊覧し、塩竈でおいしいお寿司をいただきました。その後「閖上の記憶」で被災者の体験談を聞き、みな、涙を浮かべておりました。最後にささ圭で買い物ツアーを満喫しました。ツアー終了2日後に7.4Mの地震と津波があり、まだまだ大震災の余震が続いていることを実感しました。参加された方々には、ご覧になったことの発信をお願いいたします。



震災当時の話をする（株）ささ圭 佐々木社長ご夫妻

河北新報社 大泉大介記者

松島港～塩竈（遊覧船）

立命館大学校友会東日本大震災復興支援金について

2016年8月1日～10月31日に以下のみなさまから復興支援金をお寄せいただきました。
なお、復興支援金は2016年12月20日をもちまして終了いたしました。
ご協力くださいましたみなさまに心より御礼申し上げます。

■ 個人（卒業年・学部、研究科名）※敬称略・卒業年順

個人情報保護のため、PDFではご協力いただいたみなさまの
お名前を非表示としています。

※卒業年、学部・研究科名は、校友会に登録されている情報に基づき記載しています。なお複数の学部・研究科を卒業・修了されている場合は、最終学歴を記載しています。

■ 復興支援金・義援金 受付状況

合計 21,016,844円
（2016年10月31日現在）

個人 9,117名	16,194,919円
団体・グループ 192件	4,821,925円

TOPICS

立命館大学女子陸上競技部、校友・父母・大学教職員が一丸となって応援！

10月30日（日）、第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会の「杜の都駅伝」が仙台市内で行われ、6連覇を狙った立命館大学女子陸上競技部が出場しました。宮城県および東北各県を中心に20人近くの校友、40人を超える父母が応援に駆けつけ、お揃いの立命館ブルゾンを羽織りながら、立命館ののぼりを掲げ、仙台市内を快走する選手へ熱い声援を送りました。校友・父母・大学教職員が一体となって現役学生を応援する貴重な機会となりましたが、惜しくも準優勝という結果に終わりました。

大会後の懇親パーティーでは、12月30日（金）に行われる富士山女子駅伝へ向けて、菅野七虹主将（経済学部4回生）、十倉みゆきコーチ（'96産社）から「雪辱を果たして優勝したい」と力強い抱負が述べられました。

抱負を語る菅野七虹主将と選手たち

各地から校友が応援に駆けつけた

TOPICS

「九州・沖縄ブロック 会長・RFS・RFSリーダーズ会議」が開催されました！

11月5日（土）15時から沖縄県のTKPネストホテル那覇センターにて、「九州・沖縄ブロック 会長・RFS・RFSリーダーズ会議」が開催されました。村上健治校友会長による母校の後輩学生支援の重要性を訴える熱弁に続き、鹿児島県や徳島県校友会における未来人財育成基金への寄付募集推進の先進事例が紹介されました。その中で活用事例として同基金を活用した奨学金を受け、多様な活動に取り組んだ学生も紹介され、代表して河田麻実さん（文学部4回生）が活動成果報告を行い、同基金の意義についての認識を共有しました。その後、各県校友会の具体的な募集推進活動についての意見交換が行われ、今後の具体的な目標や募集推進方針など積極的な意見が出されました。

熱い想いを伝える村上会長

TOPICS

校友の大垣守弘さん（'82経営）が立命館アジア太平洋大学で講義

立命館アジア太平洋大学（APU）では、国内学生と国際学生が共同で企業の問題解決策を立案する「キャップストーン」科目を10月初旬に開講し、初回のモデルケースとして、株式会社大垣書店代表取締役の大垣守弘さんが教壇に立ちました。講義の中では、同社が直面した問題や課題、また、それらを克服するために遂行したビジネスプロジェクトを題材にしたディスカッションや、学生がグループワークで導いたソリューションに対し、大垣さんがフィードバックを行いました。これは、APUの国際経営学部と大学院の経営管理研究科が本年8月にアメリカのビジネス教育認証機関「AACSB」から世界水準の教育機関としての認証を取得し、さらなる教育の質の向上への取り組みとして行ったものです。

講評と講義をする大垣さん

TOPICS

高槻島本校友会より「高槻まつり」の売上金を未来人財育成基金に寄付していただきました！

大阪の高槻市・島本町地域の校友会である高槻島本校友会が、毎年恒例となっている地元の祭り「高槻まつり」（8月6～7日）への出店を今年も行いました。過年度においても、出店を通して立命館大学の最新情報の地域市民への発信や、立命館大学校友会の東日本大震災復興事業への支援などを行っていただきましたが、今年度については、売り上げの一部を「校友会未来人財育成基金」に寄付していただきました。

高槻島本校友会の方々

つながる!ひろがる!
校友会設立100周年
Road to 2019

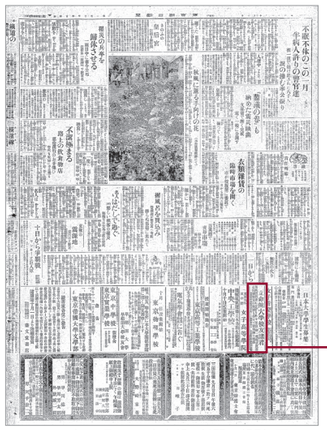
volume 03

復興支援と校友会

「災害は、忘れたころにやってくる」――。先人が残した言葉の通り、
校友会の100年もまた、災害と向き合い復興に寄り添った歴史であった。

HISTORY

1923.9.1 関東大震災	安否確認と慰問 有志による見舞金贈呈
1925.5.23 北但馬地震	東京校友有志が校友会本部を通じ 被災校友に見舞金贈呈
1927.3.7 北丹後地震	校友会本部が義援金を募集 慰問使を派遣
1995.1.17 阪神・淡路大震災	校友会予算から日本赤十字社を通して救援金を送金 校友を対象に救援金募集
2011.3.11 東日本大震災	東日本大震災復興支援特別委員会設置 義援金・復興支援金の募集と推進、配分 東北応援ツアーの実施 校友大会への被災校友の招待ほか
2016.4 熊本地震	義援金を募集し、 被災地と熊本県校友会に寄付



立命館大學校友諸君
羅災狀況並に立退先の所在を至急御一報相成度尚ほ同窓知友の動靜も併せて御報賜り度候
東京市牛込區矢來町一二 藤田知治
立命館大學校友會支部

1923年10月1日　東京朝日新聞　朝刊2面

多発する自然災害に備え、校友会では今年度より災害救助法適用災害発生時における都道府県校友会への支援金制度を新設した。これまでも東日本大震災復興支援特別委員会の立ち上げや、熊本地震の義援金募集など様々な形で復興支援に携わってきた校友会であるが、その伝統は、全国組織設立直後の関東大震災にまで遡る。

1923年10月1日の東京朝日新聞朝刊。紙面はそのひと月前に発生した地震被害と復旧活動を報じる記事一色に染まっている。広告欄は東京の各大学による授業再開の連絡や見舞文で占められているが、その中に立命館大学校友会の名前も並んでいる。校友の消息を尋ねる内容で、連絡先となっている藤田知治とは、校友会東京支部の総代をしていた人物である。震災当時、東京及び近郊に住む校友は約70名であったが、被災地から遠く離れた大学の同窓会組織が安否確認を行っていたという事実に、全国校友会の存在意義が見てとれる。

この広告への反応があったか定かではないが、10月6日に2名の校友が慰問に訪れており、そこで判明した10名の安否が10月15日発行の『立命館学誌65号』に掲載されている。また、関西勢を中心とした呼びかけ人12名を含む33名の校友が見舞金の募集に応じたことが記されており、11月15日発行の『立命館学誌66号』には続報として、10月17日時点で見舞金471円を校友会東京支部に届けたことが報告されている。有志の呼びかけであったとはいえ、地震発生から2カ月弱の間に安否確認、募金と贈呈、その報告といった支援に取り組むことができたのは、母校の大学昇格のための募金活動で築いたネットワークが下地として機能したからではあるまいか。全国校友会の組織化は、校友同士の絆を着実に強めた。関東大震災から約2年後の1925年に発生した北但馬地震では、今度は東京支部の有志が校友会本部を通じて被災校友に見舞金を贈っており、1927年の北丹後地震では、本部から被災地へと慰問使を派遣したという記録が残されている。関東大震災を機に発揮された相互扶助の精神は、より組織的な形での支援に継承され、今日の東北応援ツアーに代表される社会貢献の活動へと発展を遂げてゆく。

投稿受付中!

あなたの思い出が記念誌に?!

[第1回テーマ] クラブ・サークル編

校友のみなさまからお寄せいただいた学生時代の思い出は、100周年記念特設サイトに掲載の上、記念誌掲載の候補とさせていただきます。

検索　立命館　校友会　100周年

募集要項　※掲載の可否はご一任ください

1. 投稿には以下の内容を含めること
   氏名、卒業年・学部、タイトル、本文1200字以内、写真(あれば)
2. いずれかの方法で投稿すること
   □郵送　原稿用紙に手書きの場合
   〒604-8520　京都市中京区西ノ京朱雀町1
   立命館大学校友会事務局　100周年記念誌係
   □メール　Wordで作成の上、添付ファイルで送信
   alumni@st.ritsumei.ac.jp　※件名に「100周年思い出投稿」
   □web投稿フォーム
   QRコードまたは下記アドレスにアクセス
   https://www.100th-ritsumeialumni.jp/tsunagaru/memory/memory_form/

投稿者には抽選で
100周年記念ロゴ入り
オリジナルグッズ進呈!

100th
2019.つながる校友会、ひろがる立命館

校友会ネットワーク

全国の校友会が開催した行事の報告と、今後の予定です。

行事報告

2016年7月初旬～2016年11月初旬に行われた各団体の行事の一部を紹介しています。
＊詳しくは校友会ホームページをご覧ください
http://alumni.ritsumei.jp

都道府県校友会 / 海外校友会

8/27
熊本県校友会 総会
60名　フィガロ

8/27
島根県校友会 総会
42名　サンラポーむらくも

8/27
福島県校友会 総会
34名　郡山ビューホテル アネックス

8/27
2016 ALL 立命館交流パーティー in 北海道
1,400名　立命館慶祥中学校・高等学校

8/27
岩手県校友会沿岸校友大会
15名　大船渡温泉

9/3
広島県校友会 総会
120名　ホテル メルパルク広島

9/10
大阪校友会 総会
250名　大阪いばらきキャンパス

9/24
北九州校友会グランドジェネレーションパーティー
30名　リーガロイヤルホテル小倉

9/25
栃木県校友会 総会
32名　小山グランドホテル

10/1
宮崎県校友会 総会
44名　ホテルメリージュ

10/1
奈良県校友会若手校友企画「なら～ニング」
100名　奈良百楽ほか

10/8
新潟県校友会 創立50周年記念式典・祝賀会
150名　ホテルラングウッド新潟

10/8
サイゴン校友会 懇親会 in 京都
10名　かごの屋 北野白梅町店

10/16
長野県校友会 総会
64名　ホテルモンターニュ松本

10/16
茨城県校友会 総会
29名　水戸三の丸ホテル

10/22
静岡県校友会 総会
90名　グランシップ

10/22
山口県校友会 総会
53名　湯田温泉ユウベルホテル松政

10/29
富山県校友会 総会
90名

10/29
石川県校友会 総会
275名　ホテル日航金沢

10/29
福井県校友会 総会
124名　AOSSA

11/5
沖縄県校友会 総会
70名　ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

11/5
千葉県校友会 総会
69名　聖徳大学10号館(生涯学習社会貢献センター)

11/6
兵庫県校友会 総会
100名　神戸外国倶楽部

学部・学系校友会

7/9
国際関係学部校友会 総会&レセプションパーティー
73名　京都タワーホテル

7/23
関東建設会 総会
21名　大手町サンケイプラザ 312号室

8/5
滋賀建設会 総会
60名　琵琶湖ホテル

9/3
奈良建設会 総会
40名　奈良ロイヤルホテル

10/8
建設会 総会
130名　京都タワーホテル

10/21
愛知県建設会 総会
36名　名鉄ニューグランドホテル

10/28
岐阜県建設会 総会
37名　ホテルリソル岐阜

11/5
経済学部同窓会 総会
100名　朱雀キャンパス

地域校友会

8/26
愛媛県校友会宇和島支部
15名　和風・郷土料理かどや弁天町店

9/3
福岡県校友会筑後会 総会
43名　久留米ホテル　エスプリ

9/10
奈良県校友会天理わだつみ会 総会
38名　川原城会館

9/11
湘南クラブ ブランチ会
30名　鎌倉芸術館内カフェレストラン「パウゼ」

10/2
大阪いばらき立命会 総会
53名　大阪いばらきキャンパス

10/15
奈良県校友会南和会 総会
40名　橿原観光ホテル

10/22
高槻島本校友会 総会
85名　アンシェルデ・マリアージュ

10/23
奈良県校友会やまと郡山立命会 総会
30名　やまと郡山城ホール

11/5
北摂校友会 総会
50名　千里阪急ホテル

職域校友会

8/26
兵庫県庁清和会 総会
40名　萬壽殿

8/27
立命館学園会計人会 総会
51名　京都ホテルオークラ

9/6
京都市役所校友会 総会
186名　京都ロイヤルホテル＆スパ

9/10
社会保険労務士立命会 設立総会
13名　京都市大学のまち交流センター

10/30
立命館公認会計士校友会 総会
20名　大阪いばらきキャンパス

11/7
Rits不動産ネットワーク 総会
53名　京都ホテルオークラ

クラブ・サークルOB・OG会

8/27
新演劇研究部同窓会
12名　青冥

9/18
軽音楽部OB会 OB&OG SESSION in KYOTO
61名　アパホテル京都祇園

10/9
古美術研究会OB会
50名　琵琶湖ホテル

10/22
金太郎スキー同好会創立45周年記念パーティー
231名　京都ブライトンホテル

その他の会

9/3
立命館守山中学校・高等学校10周年記念式典
1,595名　滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールほか

9/10
双ヶ岡寮寮友会
28名　旅館 塔見茶屋

9/24
理工学部土木工学科昭和48年度入学同期会
35名　京都タワーホテル

10/3
立命土木40会 総会
40名　京都平安ホテル

10/26
三四郎会 定例会
25名　京湯元　ハトヤ瑞鳳閣

今後の行事予定

2017年1月～2017年2月に予定されている総会です(判明分)

＊詳しくは校友会ホームページをご覧ください
http://alumni.ritsumei.jp

校友会・グループ	日程	会場	問い合わせ先	
第20回北朋会	1/28（土）12:00～	ホテルライフォート札幌	立命館慶祥中学校・高等学校北朋会事務局	011-381-8888
北海道校友会 総会	1/28（土）16:30～	ホテルライフォート札幌	中川　均	nakagawa@career-bank.co.jp
建立会 総会	1/28（土）14:00～	ヴィアーレ大阪	太田　和夫	090-1580-6056
三菱東京UFJ銀行立命館大学OBOG会 総会	2/1（水）	大東洋	山添　祥統	y-y1113@w4.dion.ne.jp
姫路立命会 総会 第30回校友の集い	2/5（日）15:00～	総社会館	久内麻佐行	hisamori@topaz.ocn.ne.jp
群馬県校友会 総会	2/11（土）	ホテルメトロポリタン高崎	石橋　博	027-372-8422
弁理士校友会 総会 弁理士試験合格者祝賀会	2/17（金）19:00～	サッポロビアレストラン ニューミュンヘン北大使館		t.miyazawa@tokkyo.ne.jp
東京校友会 総会	2/18（土）11:00～	明治記念館	立命館東京キャンパス	03-5224-8188

校友会
未来人財
育成基金

「校友会未来人財育成基金」は+R個人奨励奨学金として後輩の成長に役立てられています

後輩・母校の夢を応援する「校友会未来人財育成基金」は、
その一部が立命館大学の奨学金制度である「+R個人奨励奨学金」に活用されています。
今回は、「+R個人奨励奨学金」を受けた学生たちの新たな挑戦と、これまでの成長を紹介します。

+R 個人奨励奨学金受給者 中間交流会

森川典子副会長が後輩学生を激励

2016年9月24日、+R個人奨励奨学金の2016年度受給者を対象に中間交流会が行われました。この会には森川典子副会長（'81産社）が講師として出席し、学生時代や仕事をする中で経験したターニングポイントを紹介しながら、「自分の可能性を信じて欲しい」「考えを言語化することで、人を巻き込む力を身につけて欲しい」と学生たちを激励しました。国内外を問わず幅広く活躍してきた森川副会長のバイタリティー溢れる言葉は学生たちに大いに影響を与え、講演後の質疑応答の時間を終えてもなお、個人的に相談に訪れる学生がいたほどでした。

分野の違いを超え、学生同士が交流

+R個人奨励奨学金は、正課で学んだことを発展させていこうと活動する学生や、正課外の活動でさらなる高い成果の達成が期待される学生を励まし、支援することを目的とした制度です。採択者はそれぞれの目標を達成するために計画を立てて取り組みますが、個人での活動が中心となるため、解決の難しい問題にぶつかることも少なくありません。今回中間交流会に参加した学生たちは、所属するキャンパス・学部も違えば学年も異なる者同士。もちろん取り組んでいるテーマもさまざまです。中間交流会ではグループワークも行われ、その目的は他の参加者と課題を共有することでしたが、学生たちはバックグラウンドの異なる相手にどうすれば自分のプロジェクトをわかりやすく伝えられるか、四苦八苦しながらチャレンジしました。多くのグループでは参加者間の交流を通じて、ネットワークを築くことの大切さに思い至った様子でした。今後の広がりが楽しみです。

+R 個人奨励奨学金受給者による成果報告会

オール立命館校友大会 2016 in 金沢

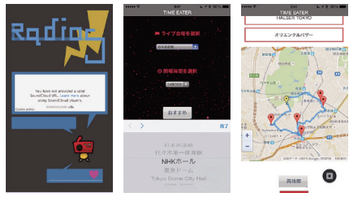
10月29日に開催された「オール立命館校友大会2016 in 金沢」では、2015年に続き成果報告会を開催。+R個人奨励奨学金を受給した6名の学生が、自身の成果をポスターにまとめ発表しました。総会・懇親会前の慌ただしい時間ではあったものの、多くの校友が立ち寄り、学生たちの報告に耳を傾けました。

立命館大学の
支援を受けて
挑戦する学生たち

+R 個人奨励奨学金を軍資金にApple Watchのアプリを制作

鶴田拓也 さん（情報理工学部4回生）

10月17日にOICにて開催された2015年度+R個人奨励奨学金成果報告会では、受給者を代表して、鶴田拓也さんが発表を行いました。それまでもエンジニアとしてインターンシップやハッカソンなど学外のイベントに積極的に参加してきた鶴田さん。とあるコンクールでは、開発したアプリが最優秀賞を受賞したものの、プレゼンテーションが思うようにできず、悔しい思いをしたといいます。そこで、賞品として獲得したApple Watchを有効活用すべく、+R個人奨励奨学金を機材の購入費に充て、Apple Watchのアプリケーションのプログラミングに挑みました。鶴田さんの開発したアプリは、ライブ会場周辺の観光案内や、仲間同士で好きな音楽を共有できるラジオなど、若者ならではの感性を生かした実用的でユニークなものばかり。今後の目標にアプリのリリースを掲げており、実際に利用できる日も近いかもしれません。



寄付の特別募集のお礼とご報告

会報265号でご案内した「オール立命館校友大会2016 in 金沢」開催記念の特別募集に、263件、7,526,307円のご支援をいただきました。昨年の225件を上回る過去最高件数のお申し込みを頂戴し、ご支援の輪が広がっていることが実感できます。みなさまのご協力に感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願いいたします。

寄付実績（2016年9月30日時点）

2,627の個人・団体・法人から
105,068,691円

募集要項

■ **寄付の金額**
(1) 個人・団体（校友会などの任意団体）の場合
ひと口1,000円からご支援いただけます（一括寄付と継続寄付［毎月・年2回・毎年］のどちらも可能です）。
(2) 法人の場合
ひと口の金額は特に定めておりません。

■ **募集期間**
期間に定めはありません。

■ **寄付の目標**
継続寄付者3,000名・累計10億円。
（2012年～2020年3月31日）

■ **活用プラン**
海外留学支援、成長支援、課外活動支援、研究支援、施設整備支援。

■ **税制上の優遇措置について**
本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

申込方法

❶ WEBで申し込む

立命館大学校友会のホームページよりお申し込みください。簡単な手続きで完了いたします。クレジットカード・銀行振込にてご寄付いただけます。

携帯電話からのアクセスはこちら!
http://gift2r.info
＊一部機種によってはご覧いただけない場合がございます。

❷ 書面で申し込む

校友会事務局に資料をご請求ください。銀行振込・口座振替にてご寄付いただけます。

お問合せ先（受付時間 土日祝を除く 9：30～17：00）

校友会未来人財育成基金に関しては
立命館大学校友会事務局
075-813-8216

寄付の受入れ、税制上の優遇措置に関しては
立命館 総務部 寄付事務局
075-813-8110

CAMPUS TOPICS
キャンパストピックス

立命館アジア太平洋大学が国際認証AACSBを取得し、世界水準のビジネススクールに

2016年8月、立命館アジア太平洋大学（APU）の国際経営学部と経営管理研究科は、マネジメント教育を推進する世界で最も権威あるビジネススクール認証機関のひとつAACSB（The Association to Advance Collegiate Schools of Business）Internationalから、国際的にも最高水準の教育を提供する教育機関として認証を受けました。国内で3校目、学部・大学院共の認証はAPUを含め2校となります。現在、世界に約16,000あるビジネススクールの中でもAACSBの認証校は僅か5%に過ぎず、これによりAPUと世界中のビジネススクールとの連携がさらに活発化し、卒業後の国内外への進学や就職にも役立つことが期待されます。

立命館大学国際平和ミュージアムが来館者100万人を達成

1992年5月、大学が世界で初めて設置した平和博物館として開館して24年。8月3日、立命館大学国際平和ミュージアムは来館者100万人を達成しました。本学は第二次世界大戦後、教学理念に「平和と民主主義」を掲げ、時代と社会に向き合いながら教育研究を実施してきており、本ミュージアムは本学が過去の歴史に学び、未来の平和を願って開設。広島、長崎の原爆資料館などが加盟する日本平和博物館会議の加盟館（10館）のひとつにもなっています。記念すべき100万人目の来館者は京都市御室児童館のみなさん。児童館では毎年8月の戦争展開催中に国際平和ミュージアムに来館されています。100万人を通過点に今後も地域社会・市民と共に歩むミュージアムとして充実を図っていきます。

安斎育郎国際平和ミュージアム名誉館長（左）と京都市御室児童館の職員の方（右）

吉田総長が熊本県知事を訪問 積極的支援を約束

8月26日、吉田美喜夫総長と塩崎賢明立命館災害復興支援室副室長が、熊本県の蒲島郁夫知事を訪問しました。熊本地震を受け、5～7月に実施した学生・教職員による西原村での農業支援ボランティア活動と、2015年11月に締結した就職支援協定を軸に熊本県校友会が主催する就職情報交換会の実施報告を行うと共に、本学関係者から寄せられた義援金を贈りました。懇談で蒲島知事は「多くの学生に来ていただき、被災された方々は大変喜び、感謝されています。さつまいもの植え付けなどを手伝われたと聞きましたが、大変だったと思います。地震の後一番怖いのが、復興復旧が始まる前に風化してしまうこと。それを乗り越えていくためにも引き続きご支援をお願いしたい」と話し、吉田総長は、「活動を通じて被災された方々と交流することが学生自身の気づきや成長にもつながっています。今後もお役に立てることがあれば積極的に関わっていきたい」と支援を約束しました。

吉田総長（左）と蒲島知事（右）

平成28年 司法試験 立命館大学から29人が合格

法務省から司法試験の結果が発表され、立命館大学大学院法務研究科（法科大学院）修了者から29人が合格しました。合格者総数が前年の1,850人から1,583人に減少するなか前年比2人増（全国17→13位）、合格者数および合格率で西日本私立大学1位となりました。立命館大学法科大学院は、今後も教育内容・方法・学習環境の一層の改善を進めると共に、修了後の継続的学習を含め、より丁寧で行き届いた教育・指導を行うよう努めていきます。

合格祝賀・激励会での集合写真

文学部 東山篤規教授が「イグノーベル賞 知覚賞」を受賞

文学部の東山篤規教授が、「光学的・身体的変換視野の効果（股のぞき効果）」に関する研究（大阪大学人間科学研究科の足立浩平教授との共同研究）で、第26回イグノーベル賞知覚賞を受賞しました。イグノーベル賞は、人々を笑わせ、そして考えさせる業績を称える賞で、並外れたものを祝福し、想像力を賞賛し、人々の科学、機械、テクノロジーへの関心を刺激するために制定されたもので、日本人の受賞は10年連続となります。東山教授は、「こういう浮世離れの感がある研究を真剣に取り上げ、評価してくれたことをうれしく思います。若い学生・研究者は、誰もしないこと、自分が面白いと思うことを研究してほしい。そして、この賞が、そうした研究の励みになることを願っています」と受賞の喜びを伝えました。

受賞スピーチの様子

「BKCスポーツ健康コモンズ」竣工式を実施

びわこ・くさつキャンパス（BKC）に、アリーナやトレーニングルームに加え本学では初となるプール施設（屋外・50m×4レーン、屋内・25m×7レーン）を備えた「スポーツ健康コモンズ」が完成し、9月20日、竣工式を開催しました。「スポーツ健康コミュニティの拠点となる空間づくり」をコンセプトに造られたもので、今後は、正課授業や課外活動、研究活動、学生や教職員が主体的に健康的なライフスタイルを確立するために必要な健康増進プログラムなどを順次提供していく予定です。

BKCの正門近くに建設

「日中韓キャンパスアジア・プログラム」が「文部科学省 大学の世界展開力強化事業」に採択

「文部科学省 平成28年度 大学の世界展開力強化事業」に、文学部の日中韓キャンパスアジア・プログラム（CAP）が2期連続で採択されました。本プログラムは、2012年度から実施したキャンパスアジア・パイロットプログラムが基盤となっており、本学、広東外語外貿大学（中国・広州）、東西大学校（韓国・釜山）が共同運営する4年一貫の常設化プログラムとして2016年度に新しいスタートを切りました。常設化に伴い、交流学生数の倍増（4年後のCAP生数は240人）、CAPを核とした学内外での日中韓交流への拡大、CAPの教育効果に関する学術的研究の発信、東アジア初の多国間連携型の学部教育における共同学位の制定など、交流する学生の量と教育・研究の質を向上させることで、一層高い効果を得られるよう革新的なプログラム設計を行っています。

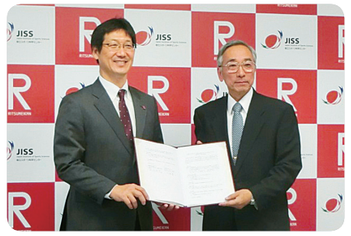
韓国での実習の様子

科学研究費補助金（科研費）で5年連続の採択金額「私立大学3位」

立命館大学は、文部科学省が10月13日に発表した「平成28年度科学研究費補助金（科研費）の配分」において、採択金額ランキングで慶應義塾大学、早稲田大学に次ぐ私立大学3位（西日本私立大学1位）、採択件数ランキングでは私立大学4位（西日本私立大学1位）となりました（採択金額は11億6,207万円、採択件数は527件で本学過去最高の採択件数）。近年、若手研究者の育成や女性研究者の活躍推進に力を入れており、採択件数の若手比率（39歳以下の研究者が採択となった件数の割合）や女性比率も顕著な数字を見せています。また、分野別では、経営学や社会学、知能ロボティクス、ソフトコンピューティング、スポーツ科学、哲学・倫理学、人文地理学などの新規採択件数が上位にランクインしました。

日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センターとの教育研究協力に関する協定を締結

日本スポーツ振興センター（JSC：JAPAN SPORT COUNCIL）国立スポーツ科学センター（川原貴センター長）と立命館大学スポーツ健康科学研究科（伊坂忠夫研究科長）は、10月24日、教育・研究内容の充実と発展および科学技術の高度化を図ることを目的とした教育研究協力に関する協定を締結しました。現在、「低酸素環境を利用したスプリント能力向上のためのトレーニング効果の検証」「高強度トレーニングが鉄代謝に及ぼす影響」「スポーツ競技者における運動後の食欲調節の変化」に関わる分野を中心に共同研究を行うと共に、合同シンポジウムを開催するなど連携を進めており、今回の協定締結により、両者の保有する教育・研究資源のさらなる有効活用を図り、トップアスリートの競技力向上を目指した取り組みを加速させます。


伊坂研究科長（左）と川原センター長（右）

中川小十郎生誕150周年記念講演会「立命館創立者・中川小十郎の思いをつなぐ」を開催

10月22日、朱雀キャンパスで、「立命館創立者・中川小十郎の思いをつなぐ」と題した、立命館創立者の中川小十郎生誕150周年記念講演会を開催しました。会には約340人が参加。彬子女王殿下（心游舎 総裁／立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員）の「記憶の種をまく－明治から未来へ－」と題した基調講演のほか、彬子女王殿下、京都大学文書館西山伸教授、東海大学札幌キャンパス課程資格センターの池田裕子准教授、本学文学部の山崎有恒教授によるパネルディスカッションなどが行われ、立命館学園創立にかけた中川の「思い」を振り返りました。

1897年当時の姿

SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
077－561－3977

体育会

京都のまちをきれいに 体育会42団体が京都駅周辺で清掃活動

8月2日、体育会（42団体）の学生約700人が京都駅周辺で清掃活動を行いました。揃いのTシャツを着用し約1時間、道路に落ちている空き缶や煙草の吸殻などのゴミを回収。今回の活動を企画した西井克将・体育会本部委員長（文4）は「今後も常に感謝の気持ちを持ち、スポーツ&スポーツを愛する者が生み出す力を発信していきたい。これからも人々から応援されるチームになるよう、地域貢献活動にもさらに力を入れていきたい」と力強く話しました。

サッカー部

10年ぶりの総理大臣杯出場 ベスト8の快進撃

サッカー部が10年ぶりの出場となった総理大臣杯で見事、ベスト8進出を果たしました。1回戦で富士大学に3−0で快勝し波に乗ると、続く2回戦では関東の強豪・筑波大学を2−1の逆転で下しベスト8に進出。四強進出のかかった桐蔭横浜大学との準々決勝では、互いに見せ場を作りながらも0−0のまま試合が終了。最後はPK戦で5−6と惜しくも敗れ悲願の日本一には届きませんでしたが、2010年の日本インカレ以来6年ぶりの出場となった全国大会で、存分にその存在感を示しました。

写真提供／立スポ

弓道部

男子団体で全国二冠 女子個人でも活躍

8月9日から11日までの3日間、日本武道館（東京）で開催された全日本学生弓道選手権大会の男子団体で6年ぶり3回目の優勝を果たしました。また、女子個人戦でも、岡村里緒選手（文3）が3位に食い込む健闘を見せました。男子団体は、初日の予選をトップ（20射皆中）で通過。2回戦からの出場となった対戦方式の決勝トーナメントも順調に勝ち進み、決勝戦では強豪の日本大学を再び20射皆中で下し、全国216校の頂点に立ちました。

11月19・20日に伊勢神宮弓道場（三重）で行われた第64回全日本学生弓道王座決定戦（男子団体）でも、決勝で法政大学を破り2年ぶり4回目の頂点に立ち、全国二冠を達成。このふたつの優勝を加え、弓道部男子は全国大会（選抜、全日本選手権、王座決定戦）で11回目の学生日本一という二重の喜びとなりました。

陸上競技部（男・女）

女子400mHで梅原選手が大会新記録で優勝 連覇を目指した女子総合は3位

天皇賜盃第85回日本学生陸上競技対校選手権大会（女子は第68回）が9月2日から4日までの3日間、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場（埼玉）で行われ、前回総合初優勝を果たし連覇を目指した女子は3位（52点）、男子総合は26位という結果でした。個人では、女子400mHで梅原紗月選手（スポ健4）が56秒79（学生歴代6位・日本歴代8位）でV。2011年にマークされた57秒02の大会記録を0秒23更新する好タイムでインカレ初優勝に輝きました。女子では他に5000mで大森菜月選手（スポ健4）、10000mWで河添香織選手（政策3）、走幅跳でも山下友佳選手（スポ健1）が2位と健闘。男子では110mHで優勝が期待された鍵本真啓選手（スポ健3）、三段跳で前回3位の髙橋佑悟選手（スポ健3）が共に5位入賞を果たしました。

女子 400mH の梅原選手

全日本女子駅伝で準優勝

大学女子駅伝の日本一を決める「第34回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」が10月30日、杜の都（仙台）を舞台に行われ、6連覇を狙った女子陸上競技部は、初優勝を果たした松山大学に敗れ2位に終わりました。1区で菅野七虹主将（経済4）が6位と2012年の1区以来4年ぶりに他校に先頭を譲ると2区で5位、3区でも順位を上げることができず6位と苦戦。4区で和田優香里選手（スポ健3）が区間記録を更新する区間2位の力走で3位にポジションを上げ、追い上げ態勢に入るも最後までトップ争いに絡むことができず快挙を逃しました。それでも2003年に初優勝に輝いて以降14年連続で2位以内を確保（うち10回の優勝）するなど力走。次回、年末の富士山女子駅伝でのリベンジを期します。

● 出場メンバーは1区から順に菅野七虹、池内彩乃（経済4）、佐藤成葉（経済1）、和田優香里、関紅葉（経済2）、大森菜月〈敬称略〉

アンカーを務めた大森選手　写真提供／月刊陸上競技

丹後駅伝で2年ぶりV

11月19日、丹後大学駅伝第78回関西学生対校駅伝競走大会（男子21チーム）が8区間84.1kmで争われ、男子陸上競技部が2年ぶりの優勝を果たしました。序盤からライバルの京都産業大学と激しいトップ争いを展開。アンカー勝負となる中、最後は村武慎平選手（文4）が、粘る京産大を15秒差で振り切りました。

水泳部

日本学生選手権飛込競技で 馬淵選手が2連覇!!

9月3・4日に広島県福山市緑町公園屋内競技場で行われた「第92回日本学生選手権水泳競技大会」の女子3M飛板飛込で、馬淵優佳選手（スポ健4）がキレのある入水を決め連覇を達成しました。大学入学後は、怪我との闘いなど苦労の連続だったと言います。多くの壁を乗り越え、集大成となる最後のインカレでのVに、会場からは大きな拍手が送られました。

喜ぶ馬淵選手（中央）

柔道部（女子）

関西学生体重別70および78kg級で優勝 全日本学生体重別個人・団体優勝大会で共にベスト8進出

9月4日、第28回関西学生女子柔道体重別選手権大会が天理大学の杣之内第一体育館（奈良県天理市）で行われ、70および78kg級で小寺結子選手（産社4）、杉田綾音選手（同3）がそれぞれ優勝するなど5人が全国への切符を獲得。続く10月1・2日に日本武道館（東京）で行われた全日本学生柔道体重別選手権大会では、63kg級の佐藤美咲選手（同4）がベスト8に進出する活躍を見せました。また、団体でも10月29日に行われた女子第8回全日本学生柔道体重別団体優勝大会でベスト8という好成績を収めました。

写真提供／立スポ

アメリカンフットボール部

全日本大学選手権・西日本代表校決定戦　惜しくも敗退

12月4日、万博記念競技場において、アメフット全日本大学選手権・西日本代表校決定戦が開催されました。宿敵・関西学院大学への「逆襲」を誓ったパンサーズでしたが、前半はファイターズの厚い守りと多彩な攻撃に翻弄され20点リードを許してしまいました。しかし、ハーフタイムを境に本領を発揮。タッチダウンを連続して獲ると流れはパンサーズへ。続くフィールドゴールで3点差まで追い上げ、昨年学生日本一の意地を見せましたが、再びタッチダウンを獲られます。最後の1秒まであきらめずに戦い抜きましたが、逆転ならず、26対17で2年連続甲子園ボウル出場の権利を勝ち取ることは叶いませんでした。最後まで戦い抜いたパンサーズに、スタンドからは健闘をたたえ、温かい拍手が送られました。

タッチダウンを決めた西村七斗選手

CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075－465－8168

囲碁研究部

全日本学生本因坊にて準優勝 女子も3位入賞と健闘

8月6・7日に日本棋院会館（東京）で、第60回全日本学生本因坊決定戦および第52回全日本女子学生本因坊決定戦が行われ、それぞれの大会で平野翔大さん（産社1）が準優勝、竹野麻菜美さん（同2）が3位入賞を果たしました。学生囲碁界の頂点を決める大会には、全国の予選を勝ち抜いた男子32人、女子24人が参加。2日間にわたって盤上での熱い戦いを繰り広げました。囲碁研究部からは、全国で最多の男子6人、女子5人が関西代表として出場するなど、強豪が集う中、好成績を収め存在感を示しました。

平野さん（左）と竹野さん（右）

全日本学生囲碁十傑戦で 平野さんが優勝

第53回全日本学生囲碁十傑戦が11月18日から20日までの3日間、日本棋院京都本部・藤田塾で行われ、平野翔大さんが初優勝、吉村維倫さん（文3）が9位という好成績を収めました。大会には全国各地区代表32人が参加。囲碁研究部からは最多の5人が出場し熱戦を展開。平野さんは1回戦から順調に勝ち上がり、7月の第11回朝日アマ名人戦全国大会に続くタイトル奪取となりました。

かるた会

かるた会が全国大会で今年も躍動!!

8月13・14日の2日間、かるたの聖地・近江神宮（滋賀）で、第23回全日本大学かるた選手権（団体・個人）が行われ、かるた会は団体3位、個人では4回生の部で中村将杜さん（法）が優勝、2回生の部Bでも中村汐里さん（文）が優勝、大工原聖太さん（文）が準優勝、1回生の部でも坊亜沙美さん（産社）が準優勝するなど各部門で活躍しました。学生競技かるたの頂点を決

めるこの大会は、全国から数多くの強豪大学が参戦。「畳の上の格闘技」と言われるほど、激しい競技かるた界で、本学かるた会は、過去には団体戦5連覇を達成するなど全国屈指のチームとして知られており、今後のさらなる飛躍が期待されます。

将棋研究会

富士通杯争奪全国大学対抗将棋大会にて大会2連覇!!

9月10日～12日、富士通ソリューションスクエア（東京）で、富士通杯争奪第十二回全国大学対抗将棋大会が行われ、将棋研究会が見事大会2連覇を達成しました。立命館大学は関西地区代表として出場し、3日間にわたった全9局を戦い抜きました。

CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

問い合わせ先：広報課
075－813－8146

立命館慶祥高校の中桐さんが国際生物学オリンピックで銀メダル獲得

7月17日から24日まで、ベトナムのハノイで開催された「第27回国際生物学オリンピック」で、立命館慶祥高校2年の中桐悠一郎さんが見事、銀メダルを獲得しました。3,433人のうち4人のみという厳しい国内予選を突破し日本代表となった中桐さん。高校3年間で80タイトル、中・高合わせて1,000時間の実験を行う文部科学省指定のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）認定校の環境をフルに生かし、快挙につなげました。

立命の家2016ファンタジー ～君の世界を広げよう～

8月24・25日の2日間、びわこ・くさつキャンパス（BKC）で「立命の家2016ファンタジー ～君の世界を広げよう～」を開催しました。16回目を迎える今回も、BKCのプロジェクト団体や学術系団体など計9団体が体験プログラムを企画。248人の応募の中から抽選で選ばれた小学生121人、保護者50人が参加し、学生と共に楽しいひと時を過ごしました。

【団体企画一覧】

- 草津天文研究会
  「プラネタリウムで星を見よう!」
  「自分だけのぼうえんきょうを作ろう!」
- 情報理工学部プロジェクト団体RiG++
  「アクションメーカー
  ～めざせゲームクリエイター!～」
- 音響工学研究会
  「ストローで楽器を作ろう!」
- 立命館コンピュータークラブ（RCC）
  「Minecraftでプログラミングを学ぼう!」
- E.S.S.（英語研究会）
  「英語にふれて世界へ!」
- 情報理工学部プロジェクト団体Ri-one
  「vs 人工知能!」
- 飛行機研究会
  「鳥人間が教える紙飛行機（Lv.100）!」
- ライフサイエンス研究会
  「しゃぼんだまつり!」
- ロボット技術研究会
  「空気の力で浮くホバークラフトを作ろう!」

ヒロシマ・ナガサキでアメリカン大学の学生と平和について考える国際平和交流セミナーを実施

第22回国際平和交流セミナーを8月1日から10日間の日程で実施しました。原爆投下から71年目、オバマ大統領がアメリカの現職大統領として初めて広島を訪問するなど記念すべき1年となった今回、本学および立命館アジア太平洋大学から19人、アメリカン大学から17人の学生が参加し、プログラムを通じ平和について交流を深めました。広島・長崎訪問に先立って行われた京都プログラムでは、立命館大学国際平和ミュージアムの見学や、アメリカ史に関するドキュメンタリー映画の鑑賞、ピーター・カズニック・アメリカン大学教授や君島東彦・国際関係学部長の講義、被爆者である近藤紘子さんによる講演などが行われました。自らの被爆体験を伝える語り部として活動を続ける近藤さんの「人を憎むべきではなく、戦争を起こす人間の心の中の『悪』を憎むべきである」という言葉に、多くの学生が感銘を受け、共感していました。

2016年度立命館大学学園祭を開催 BKCがハロウィン一色に染まる

10月30日、BKCで、2016年度立命館大学学園祭が開かれました。今年度はBKCのみの1日開催とあって、各キャンパスから様々な団体が集結。パフォーマンスの披露や展示をはじめ、模擬店などを出店しました。今年のテーマは翌日に控えたハロウィンにちなみ、「Halloween+R ～いいからあそびにきな祭～」。会場の装飾やゲーム内容にかぼちゃやお化けがあしらわれ、ステージの司会者や模擬店の学生、来場者にも仮装した人々が多く見られるなど、BKC全体がハロウィン一色に染まりました。立命生だけでなく、保護者や近隣の家族連れなど1万人を超える方々が来場し、盛況のうちに幕を閉じました。

+Rな人

現地の力になりたい たとえ目に見えなくとも、すぐ効果が出ず 何十年後になったとしても…

法学部国際法務特修3回生
森雄一朗さん
（そよ風届け隊代表）

2012年9月に発足した学生団体「そよ風届け隊」（以下、そよ風）。東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を受け、福島県楢葉町※（以下、楢葉）の人たちが避難生活を送っている仮設住宅を訪れ、足湯マッサージや傾聴ボランティア、地域の行事のお手伝いなど地域の人々の心に寄り添う活動を続けてきた。昨年、避難指示解除後も定期的に楢葉に通い、この夏には、他団体と協働で現地の小学生に楢葉の魅力を感じてもらう“めちゃめちゃよくばりキャンプ”を実施。秋からは楢葉の小さな情報を伝え人々の心をつなぐ“ならはかわら版”の制作（A2判・隔月発行）にも取り組んでいる。今回は2回生時に入隊し、2016年4月からそよ風の代表を務める森雄一朗さんに活動に対する思いなどを聞いた。

「お手紙、ありがとうね。あの時は本当に楽しかったわね」。受話器の向こうで、懐かしい声が呼びかけた。昨夏、楢葉で出会ったおばあちゃんからの突然の電話だった。

「楢葉に縁のある人々にインタビューし、その声をポスターにまとめる活動で、お世話になった方にでき上がった作品を届けに行ったのですが、たまたま留守にされていたので、手紙と一緒に郵便受けに入れて帰りました。1年以上もお会いしていなかったのに当時の様子を鮮明に覚えていてくださって、私が今も楢葉に関わり続けているということを伝えるととても喜んでくださいました」。森さんが、これまでの活動で一番印象に残っているシーンであり、「自分たちのことを忘れずに待っていてくださる方がいる限り、楢葉に通い続けよう」と決意した瞬間だった。

森さんが「ボランティア」をはじめたのは、病気で倒れた母の勧めがきっかけだった。離れて暮らしているので、直接母のためにできることは少ない。自分が人のために何かをすることが、回り回って母のためにもなるのではないかと思い、手始めに「減災」をテーマに自然災害で被災した地域をフィールドに学ぶ授業を受講した。その中で、楢葉と出合い、豊かな自然やそこで暮らす人の魅力に引き込まれ、楢葉を拠点に活動するそよ風への加入を決めた。

仮設住宅で暮らすおばあさんと一緒に（写真中央が森さん）

「build back better（ビルド・バック・ベター）」という言葉がある。町を災害前の状態に戻すのではなく、さらに良い今があると思える社会・地域にするという意味が込められている。原発事故の被害を受けた楢葉が元の状態に戻ることは困難を極める。しかし森さんは、辛い経験を胸に新たな町づくりに挑む力強い人々の姿を見て、「私たちの活動も、そのきっかけのひとつにしたい」と強い思いを持つようになった。

楢葉の子どもたちを対象に開催したキャンプの集合写真

また、森さんには常に意識していることがある。自分たちの活動が現地の人たちに及ぼす影響についてだ。「私たちが仮設住宅で活動をして帰った翌朝、それまで賑やかだった反動から、“より暗い気持ちになる”“寂しい”と感じる方がおられると聞きました。一緒にいる瞬間を楽しむだけでなく、楢葉の方はどうなるだろう、町にはどういった影響があるだろうと想像するようにしています」。自分たちが活動してそれで終わりなのではなく、復興のためには地域の力を引き出すことが重要だという考えがそこにある。

この4月に先輩から代表を引き継ぎ、活動にリーダーとしての役割が加わった。今後の活動について、「時間と共に変化する現地に合わせ、活動内容も柔軟に対応していきたいと考えています。これからは他の団体と手を組み、共に楢葉で活動ができるよう橋渡し的な役割も担っていければ」と力を込める。

ボランティア、復興支援活動への関わり方や方法は人それぞれ。そこに正解など存在しない。迷い・悩みながらも共に前に進む。心と心のつながりがある限り、時の経過と共にたとえその形が変化しようとも、楢葉の人々との未来に向けた森さんと、そよ風の活動はこれからもきっと続いていく。

※福島県楢葉町：東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により全町避難を余儀なくされた。2015年9月5日に、全町避難した町で初めて避難指示が解除された。

INFORMATION

校友消息（判明分）

叙勲 2016 年秋

■旭日小綬章
赤堀義次氏（'61 文）
元滋賀県議

■瑞宝重光章
末永　進氏（'69 経済）
元札幌高裁判事

■瑞宝中綬章
小畑和裕氏（'70 法）
元広島法務局長

■瑞宝小綬章
越島正喜氏（'69 法）
元石川県参事

松井利文氏（'71 法）
元奈良区検副検事

危険業務従事者叙勲 2016 年秋

■瑞宝双光章
馬場　実氏（'56 法）
消防功労（元大津市消防司令長）

高本　晋氏（'68 法）
警察功労（元京都府警視）

■瑞宝単光章
中川正人氏（'74 産社）
消防功労（元大阪市消防司令長）

褒章 2016 年秋

■黄綬褒章
三輪金久氏（'63 経済）
（株）泰文堂書店 代表取締役

■藍綬褒章
大西信二氏（'62 経済）
篤志面接委員

鈴木英雄氏（'63 文）
保護司

訃報

岡本正志氏
9 月 11 日ご逝去　72 歳
愛媛県校友会前会長

櫻井規枝氏（衿野未矢氏）
9 月 17 日ご逝去　53 歳
東京校友会元副会長

雀部　晶氏
10 月 7 日ご逝去　66 歳
本学名誉教授

渡辺高行氏
11 月 23 日ご逝去　80 歳
福岡県校友会元副会長

就任

福永就夫氏（'83 文）
学校法人河合塾理事

茂山千五郎氏（'90 入学）
十四世茂山千五郎

当選

隈元　新氏（'73 経営）
伊佐市長

BOOKS（寄贈図書）

校友会へご寄贈くださいました本の中から一部を紹介させていただいております。

◆貝辻正利氏著（'65 法）
『イベントを安心して楽しんでいただくために
企画・実施管理から警備に至る実戦的手法』
講談社エディトリアル　2,000円＋税
※ 中国語・韓国語翻訳版も発刊

◆髙田朋男氏著（'78 経営）
『慶運の星の下に生まれし者』

◆南家久光氏著（'79 法）
『文色（あいろ）』
学研マーケティング　1,905円＋税
『水色の季節』
『岬町恋歌』
『瓦礫の中に立ちすくむ時』
東京印刷　各463円＋税

◆西村　仁氏著（'85 理工・'06 院経営）
『機械加工の知識がやさしくわかる本』
日本能率協会マネジメントセンター　2,000円＋税

◆鎮　勝也氏著（'91 産社）
『二人のエース
－広島カープ弱小時代を支えた男たち』
講談社　660円＋税

編集室から

数十年前に広小路学舎で学んでいた頃、とても困ったことはストッキングがほぼ毎日破れること。教室の椅子がひどかったのだ。クラスでいくら訴えても男子は知らんぷり、団結しようにも女子はクラスに4人しかいなかった。二十数年前に広報（編集）委員になったとき、何年間かずっと女子の出席は私一人だけ。常任幹事会もそうだった。女子で最年少の私は、偉い先輩方の中で発言などできるはずもなく、小さくかしこまって様々な意見に必死で聞き入っていた。それが今、広報誌は男女半々の割合で、キラキラ輝くリツジョたちが表紙を飾る。ページをめくると、日本で、世界で大活躍するリツジョたちを目にすることができる。本当に誇らしくうれしい。ただ私は、最近はどこに行っても最年長に近くなって、少し寂しい気がしている。（加藤美佐子）

歳を重ねると神社仏閣と歴史に興味を持ちだすのは、まんざら間違っていないなと感じる今日この頃です。遠地への出張があればできるだけ早めに現地入りして、見どころや神社の散策に出かけます。はじめての街の雰囲気がとても新鮮に感じます。先日近所の図書館で、フッと目に入った『イザベラ・バードの日本紀行』を手に取りました。この本は今から140年近く前の明治時代に英国人女性がはじめて日本を旅したときの記録です。横浜に上陸してから東京、日光、新潟、山形、秋田、青森、そして北海道を回ります。この女性が見た日本という国、そこで暮らす人々への素直な想いがとても興味深い内容で、日本の良さを再発見した秋のひとときでした。これから冬も本番に入ります。校友のみなさまもどうぞご自愛ください。（西村 仁）

かつては司法試験も上級公務員試験も合格者が年に一桁台の結果しかなかったが、就職部からキャリアセンターへの改革、エクステンションセンターや法科大学院の設置など、志望学生に高い目標を持たせ、それを夢に終わらせるのではなく、実現させるための政策を大学全体で具体化した成果が徐々に表れつつある。それには、体験交流会など大学の取り組みを後押しした校友のみなさんのご支援があったことを忘れてはならない。ちなみに2016年司法試験の法科大学院別の合格者ランキングは、立命館が29人（全国13位）、同志社17人（17位）、関学15人（19位）、関大15人（19位）で、同年国家公務員総合職（旧I種）の大学別ランキングは、立命館が26人（全国20位）、同志社16人（24位）であった。今後は、全国ランキング一桁台を目指して一層頑張っていただきたい。（YT）

日頃、自分の仕事では「創意工夫をモットーにしています」といっているのですが、なかなかそういうわけにもいかず、誰でも思いつくようなことしかできていないところ、今年、誰もやらないようなユーモアと独自性を兼ね備えた研究を評価するイグノーベル賞に母校の先生が選ばれたことは、驚くとともに大変うれしい出来事でした。受賞の対象となった「股のぞき」は、天橋立に行ったときに自分もやったことがあります。何か違和感はありましたが、まさか逆さまに見ると、ものが小さく見えるということまでは到底思いつきませんでした。それを実証的に研究されたということは本当に素晴らしいことだと思います。一見、何の役に立つのかと思いがちですが、将来とんでもない応用が利くような気がします。（日下部和弘）

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～

REBORN

2013 年 4 月から 2016 年 10 月末までに 3,691 名の方々から 169,416 冊の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。
引き続き、校友のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

どのような仕組みですか？

古本を送付 → 古本の集荷・仕分け・買い取り → 図書充実のための費用へ

校友のみなさま → 株式会社バリューブックス（VALUE BOOKS）※提携企業 → 立命館

以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。

- ISBN のない本
- 百科事典　●コンピニコミック　●個人出版の本
- マンガ雑誌　●一般雑誌

ISBN 見本　ISBN978-4-1234-5678-9

※上記の本が混入していても、費用の負担などは生じません。

手続きの方法は？

①書籍を段ボール箱に入れる。
②電話（バリューブックス　0120-826-292）かWEBで集荷を依頼する。

※ お電話の場合は右の「申込書」をキリトリ線に沿って切り取り、必要事項をご記入のうえ段ボール箱に入れてください
※ 5 冊以上であれば送料は無料です

詳しくは WEB をご覧ください。　立命館の本活　検索

お問合せ先　学校法人立命館 総務部 寄付事務局　TEL：075-813-8110（平日 9:30 ～ 17:00）

お申込みに関してのご注意

買取額は市場価格等を考慮して（株）バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや値段がつかないこともございます。お申込みに際しては、その点をご理解くださいますようお願い申し上げます。

<キリトリ>

BOOKS FOR BOOKS ～立命館の本活～申込書

1. 本申込書記入者（以下、私）は、私が所有する書籍等を株式会社バリューブックスに引き渡し、その売却代金を学校法人立命館が受領することをもって、私からの寄付とするものであることを確認します（現物寄付ではありません）。
2. 私は、株式会社バリューブックスおよび学校法人立命館に対し、理由を問わず、本件書籍等の返還、および買取相当額の支払いを請求いたしません。
3. 私は、株式会社バリューブックスと学校法人立命館が、本申込書に記載された氏名等の個人情報を本プロジェクトならびに学校法人立命館の活動目的にのみ使用することを了承します。

ご記入日　　年　　月　　日　送付段ボール箱数　　箱

学校法人立命館 理事長 長田豊臣殿
学校法人立命館の設置する学校の教育および研究の充実のために本物品の売却代金を寄付します。

フリガナ

お名前

生年月日　西暦（　　）年（　　）月（　　）日

住所（〒　　-　　）

電話番号

E-mail　　@

寄付目的　立命館学園の図書充実のため

本学との関係（任意）
☐ 卒業生　卒業 西暦（　　）年　卒業校・学部（　　）
☐ 教職員　☐元教職員　☐ 在校生父母・卒業生父母
お子様の在籍校・卒業校（　　）

今後、本学の各種行事等のご案内を差し上げる場合がございます。希望されない方は右記にチェックをしてください。　☐案内等を希望しない

事務局記載欄　買取価格　　円　団体ID 98

<キリトリ>

立命館大学国際平和ミュージアム企画展のご案内

第 105 回ミニ企画展示

ミュージアム・この1てん
「対敵宣伝須知」

※瀬口允子氏寄託資料

鹿地亘関係資料のひとつ、対敵宣伝須知は日中戦争時に中国国民党政府の元、日本軍への宣伝工作についてまとめられた冊子です。当時の日本軍、そして日本が行っていた戦争がどのようにとらえられていたのか、その一端を紹介します。

第 106 回ミニ企画展示

第22回京都ミュージアムロード参加企画
「京都と空襲」

防空法による統制や建物疎開、東山区や上京区への空襲、日本も行っていた戦略爆撃などのテーマから京都と空襲を考えます。また、本学映像学部鈴木ゼミとの共同調査から体験者の聞取調査映像を制作し、展示する予定です。

防空演習・上京区衣棚通今出川上
※大塚隆コレクション

関連企画
京都放送劇団　朗読劇「戦火の杖音」
日時：2017年2月25日（土）　開場 13：30／開演 14：00
会場：立命館大学国際平和ミュージアム中野記念ホール
● 観覧無料（定員150名）・申込不要

会　期

第 105 回 ミニ企画展示
ミュージアム・この 1 てん
「対敵宣伝須知」
2017年1月12日（木）～ 1月31日（火）

第 106 回 ミニ企画展示
第 22 回京都ミュージアムロード参加企画
「京都と空襲」
2017年2月4日（土）～ 3月26日（日）

※常設展示（地階・2 階）は、上記展示期間以外でも見学することができます。

開館時間
午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分（入館は午後 4 時まで）

休館日
月曜日（ただし 1/9、3/20 は開館）、12/24（土）、1/10（火）、2/12（日）

観覧料
一般 400 円（350 円）／中・高生 300 円（250 円）／小学生 200 円（150 円）
（　）は 20 名以上の団体料金／障害者手帳をお持ちの方（介護者 1 名を含む）は無料
※12/26（月）～ 1/5（木）は冬期休館です。

立命館大学国際平和ミュージアム
常設展・特別展
有効期間
2017年3月25日（土）まで
（校友 2名様入館無料）
校友会報「りつめい」No.267
校友招待券